

生活支援技術 I

担当教員 馬場 敏彰

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. どのような障害や生活の困難さがあっても生活そのものが個人としての自立・自律するために必要な援助や支援を学ぶ。
2. 生活の理解と支援の方法について、基本的な視点としてのICFの理解を深めると同時に介護サービス提供の対象や場を把握しながら、基本的な介護の知識・技術を養う。
3. 生活の仕組みの理解を深め、生活支援の考え方としてICFの視点を身につける。

【授業の展開計画】

科目担当者実務経験

馬場：介護福祉士として病院勤務経験・在宅支援勤務経験、介護福祉士養成校教員 他

週	授 業 の 内 容
1	生活支援に必要な生活の理解
2	生活と生活習慣（生活の主体性）
3	生活形成のプロセスとアイデンティティ
4	生活の構成と要素
5	事例を通して考える「生活形成のプロセス」
6	生活の継続性
7	生活支援が必要な人の理解（生活関連動作と日常の生活）
8	生活支援の理解
9	生活支援の考え方①（意義・目的）
10	生活支援の考え方②（生活障害による生活のしづらさ）
11	生活支援とICFの視点
12	ICFの視点にもとづくアセスメント
13	ICFにおける「活動・参加」
14	利用者の生活と生活支援
15	生活支援の実際

【履修上の注意事項】

事前学習として、単元のテキストを読み、疑問や質問を明確にしておくこと。（30分）

事後学習として、講義中のノート・学びをまとめること。指示された課題に取り組むこと。（30分）

【評価方法】

期末試験80% 課題提出10% 講義における積極性10%

【テキスト】

『生活支援技術 I』 『生活支援技術 II』 中央法規 最新版

【参考文献】

授業のなかで適宜紹介する。